

1. トマトラン灌漑地区の農業・農村開発に参加して－問題解決の糸口は現場から－

増淵清 (有)アールディーアイ

講演内容

はじめに

1. 要請の背景
2. 業務実施計画の策定
3. 今後の対策と持続発展的計画の試案

総括



ハリスコ州の牧畜 2003年

摘要

報告者は、シニアボランティアとして、メキシコのハリスコ州海岸地域「トマトラン灌漑地区」で、小規模果樹・野菜農家の人たちを対象に、持続発展的な開発を模索した。当初は、土壌保全・改良を要請されていたが、当地区での重要度、緊急度等の実態調査を行った結果、そのほかの問題点が浮き上がった。現場の状況に合わせ、カウンターパートが自力で問題点を解明し、対応策を検討し、具体的な問題解決のための行動を起し、且つその行動を継続することができるようなシステムを作ることを任期中の活動目標とし、その活動について具体的な報告を行った。

2. パナマ共和国ノベ族・ブグレ族自治区に対する支援から

加藤麻子 (有)アールディーアイ(当時)

講演内容

- I. 序:本稿の目的
- II. パナマ共和国について:統計より
- III. ノベ族・ブグレ族
- IV. 要因の分析
- III. まとめ



ノベ族・ブグレ族自治区 2003年

摘要

青年海外協力隊・村落開発普及員として、パナマ共和国の先住民族ノベ族と活動し、常に住民の開発への主体的な関わりを求めたが、非常に困難な現実があった。今までにも、農法の改善による土地の有効利用と生産性向上、土壌保全をうたった支援等が多くなされてきたが、目立った改善は見られない状況である。その要因について、住民自身に起因するもの、外的影響に起因するもの、中でも援助側・非援助側の公的機能が果たしうるシステムに欠けている点を分析した。

1. ジェンダーと開発ーJICA 事業における実践を通してー

古谷典子 (株)グローバルリンクマネジメント

講演内容

1. 「ジェンダーと開発」総論
2. マレーシア農村女性地位向上マスタープラン作成
～マレーシア国サバ州農村女性の地位向上計画を通して～
3. インドネシア酪農技術改善
～インドネシア酪農技術改善計画長期調査を通して～
4. 私たちにとって開発とジェンダーとは何なのか？



アフリカ農村地域住民インタビュー 2003年

摘要

社会的・文化的性差を指す「ジェンダー」は、人々の考え方や価値観をもとに規定され、地域や場所により異なるとともに同じ地域にあっても時とともに変化する可能性がある。その視点、つまり男女の役割やニーズの差異が無視されていると、プロジェクトの便益が対象社会の住民男女に公平に行きわたらない、プロジェクトの自立発展性が阻害されるなどの様々な問題が生じる。「インドネシア酪農技術改善計画」長期調査および「マレーシア国サバ州農村女性の地位向上計画」の事例を、途上国における開発の事例を挙げて解説した。少子高齢化社会となった日本にも、より良い社会を築くために、ジェンダーの視点は欠かせないものである。

2. 参加型事業におけるジェンダー配慮ーフィリピンの事例よりー

白木朋子 (株)グローバルリンクマネジメント

講演内容

1. なぜジェンダー配慮は必要なのか？
2. 参加型事業とは何か？
3. ジェンダーに配慮するためには何が必要か？
4. ジェンダーと他の社会配慮



フィリピンで農村調査 2004年

摘要

報告者は、フィリピンにおける住民参加による森林資源管理を効果的に行うための、具体的な手法やプロセスを実施しながらとりまとめる調査に、2003年12月より8ヶ月間従事した。その中で、住民参加型の開発事業におけるジェンダー配慮の重要性およびそのあり方について学んだ。

ジェンダー配慮の目的は、開発によって生ずる男女間の格差や不平等そのものを是正し、開発による利益を偏りなく行き渡らせることにより、社会全体がより豊かになることへの期待である。また男女差のみならず、障害者、高齢者、子供、少数民族など配慮が必要なグループにも、ジェンダー配慮に必要な視点等が有効となる。ジェンダー配慮を特別なものとして考えるのではなく、社会全体がより豊かになるために必要なことのひとつとして捉えると分かりやすいのではないか。

第4回勉強会 2004年9月10日

1. ガーナの灌漑農業における営農投入資材貸付(Farming Input Credit)の事例

森田信晴 (有)アールディーアイ

講演内容

1. 任国の状況
2. 派遣の背景・目的
3. 営農投入資材貸付(Farming Input Credit)制度



講演会で 2004年

摘要

報告者は2001年5月より2004年7月まで、JICA技術協力プロジェクト「ガーナ国かんがい小規模農業振興計画(SSIAPP)」に参加し、農民組織/営農分野を担当した。主要業務に SSIAPP 創設の営農投入資材貸付制度がある。これはかんがい稲作営農の主要な制限因子「営農資金不足」への対応であり、この制度によってモデル地区では、投入材、特に肥料の適期適量施用による安定的な増産が実現した。原資はプロジェクトの供与機材費の肥料と農薬を充て、現物を貸付け返済金で次作貸付資材を購入する回転資金である。本勉強会では、標記貸付制度の具体的運用事例の紹介を行った。

2. 農村開発における作物生産と農産物流通 タンザニア、スリランカおよびイランの事例

仁部輝彦 (有)アールディーアイ

講演内容

1. 効果的な農村開発計画へのアプローチ
2. タンザニアでの野菜生産と流通の事例
3. スリランカでの畑作物生産のための農民組織化と流通の事例
4. イランでの農産物流通の事例

1. パナマ共和国緑化推進計画プロジェクト・ファインディング調査報告

大塚真琴 (有)アールディーアイ(当時)

講演内容

1. 調査の背景
2. 計画対象地域の概要
3. 計画の概要

2. ドミニカ共和国果樹栽培に関する帰国報告

小寺義郎 (有)アールディーアイ(当時)

講演内容

1. 要請の内容および協力の背景
2. 活動内容及び業務実績
 - I. 業務実施計画
 - II. 成果



果樹試験場で 2003年

摘要

IDIAFIはドミニカ唯一の農業試験研究機関であり、全国に21か所の試験地及び試験場が展開され、それぞれの地域に適応した作物の試験研究が行われている。果樹栽培に関する試験研究は、熱帯果樹の栽培農家が多い、南西部地域に集中している。鉱物資源が乏しい当国において、果樹類は重要な外貨獲得の作物であり、カリブ海地域では、有機農法による農産物生産と輸出のもっともすすんだ国である。報告者は、2003年6月に移転したバナ果樹試験場の強化、および地域適応品種の選抜育成にシニアボランティアとして携わり、果樹の試験研究、教材作成、講習会の開催等を支援した。